

# 京都府漁海況情報

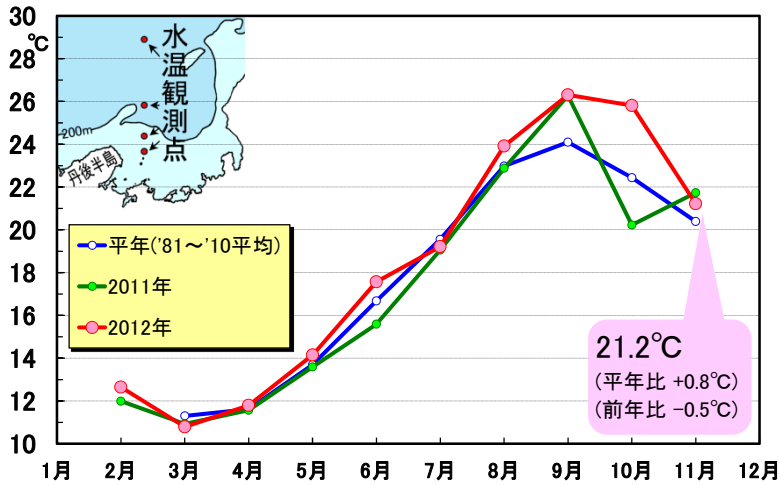
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況

### 【現況】

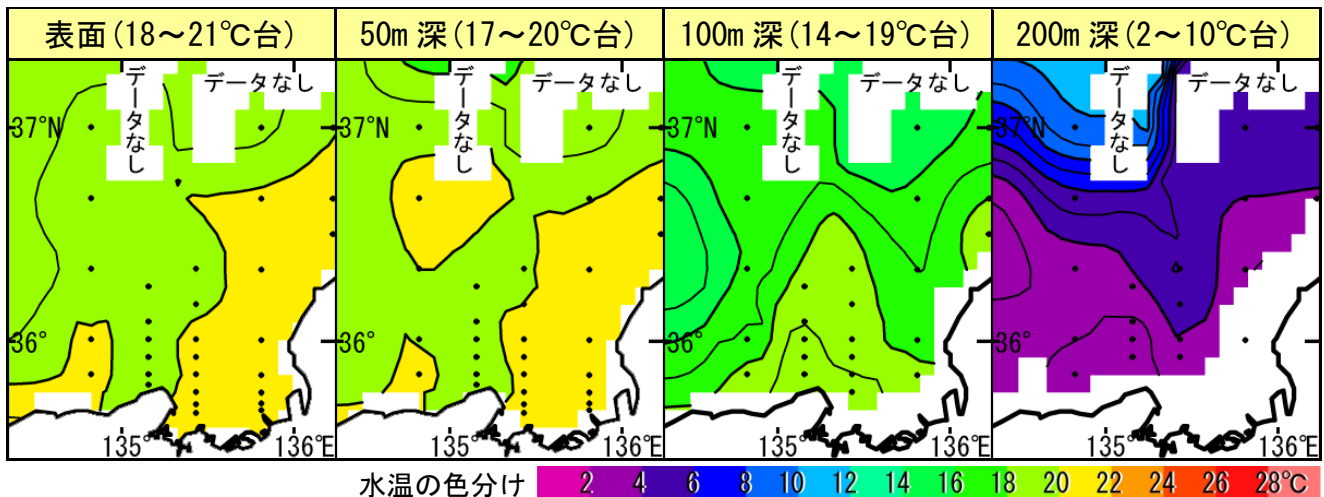
11月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年よりやや高めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2012年11月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



### 【今後の見込み】

資料元：気象庁、(独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し※	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

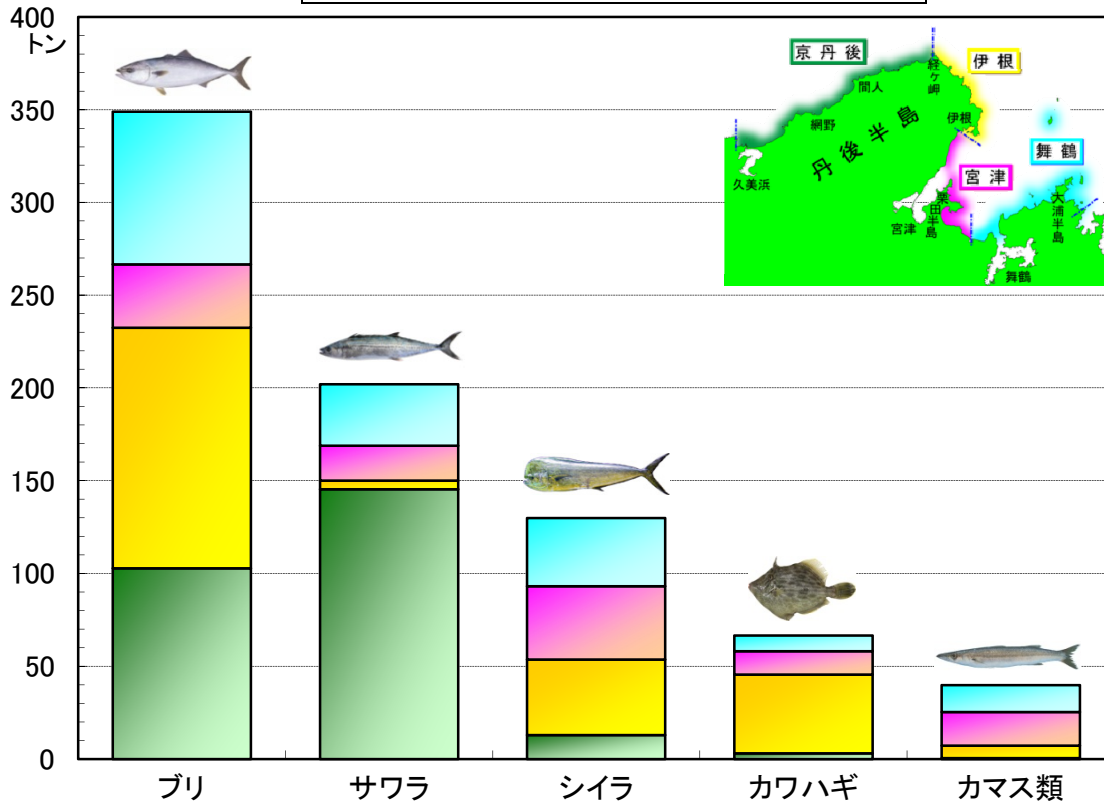
※冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

# 漁模様 ～2012年10月～

## 【定置網漁業】

ブリ(つばす銘柄)やシイラが好漁でしたが、全体の水揚量は前年および平年より若干少なめでした。

2012年10月の地域別漁獲量(上位5魚種)



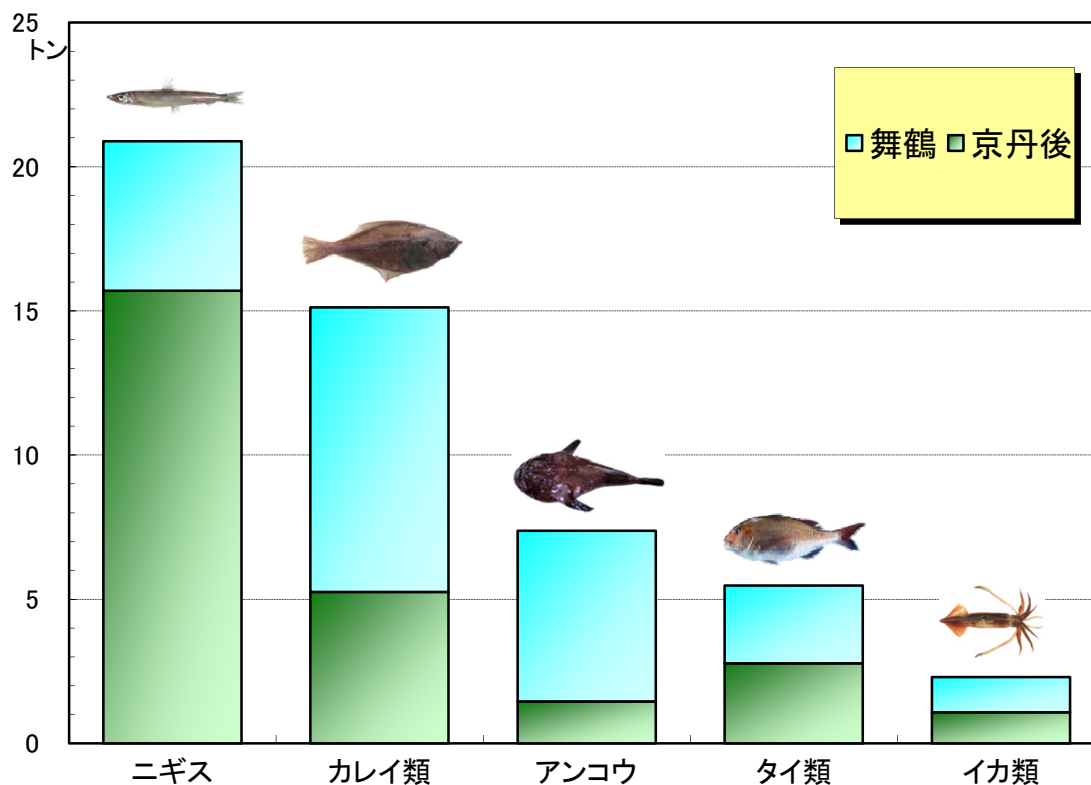
10月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	348.9	63.9 (546%)	130.3 (268%)	<ブリ> つばす銘柄(尾さ長 30~40 cm 主体)がほとんどで、はまち・まるご・ぶり銘柄は若干量でした。 <サワラ> さごし銘柄(尾さ長 34~44cm 主体)がほとんどで、さわら銘柄(尾さ長 60~70cm 級主体)は若干量でした。 <イカ類> アオリイカ(秋いか)が 25.5 トン、ソデイカ(たるいか)が 7.3 トン、ケンサキイカ(白いか)が 4.2 トンなどでした。
サワラ	201.9	262.3 (77%)	203.9 (99%)	
シイラ	129.8	25.5 (510%)	69.6 (187%)	
カワハギ(丸はぎ)	66.6	39.4 (169%)	31.8 (210%)	
カマス類	39.8	102.1 (39%)	42.6 (93%)	
イカ類	38.3	76.0 (50%)	41.4 (93%)	
マアジ	24.8	125.9 (20%)	189.4 (13%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	18.3	7.9 (230%)	15.5 (118%)	
カジキ類	10.7	2.9 (369%)	4.0 (267%)	
メジナ(つかや)	5.2	6.1 (86%)	6.9 (76%)	
その他	52.8	287.4 (18%)	265.0 (20%)	
合計	937.1	999.3 (94%)	1000.2 (94%)	

平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

全体では平年および前年の約7割の水揚げでした。

2011年10月の漁獲量(上位5魚種)

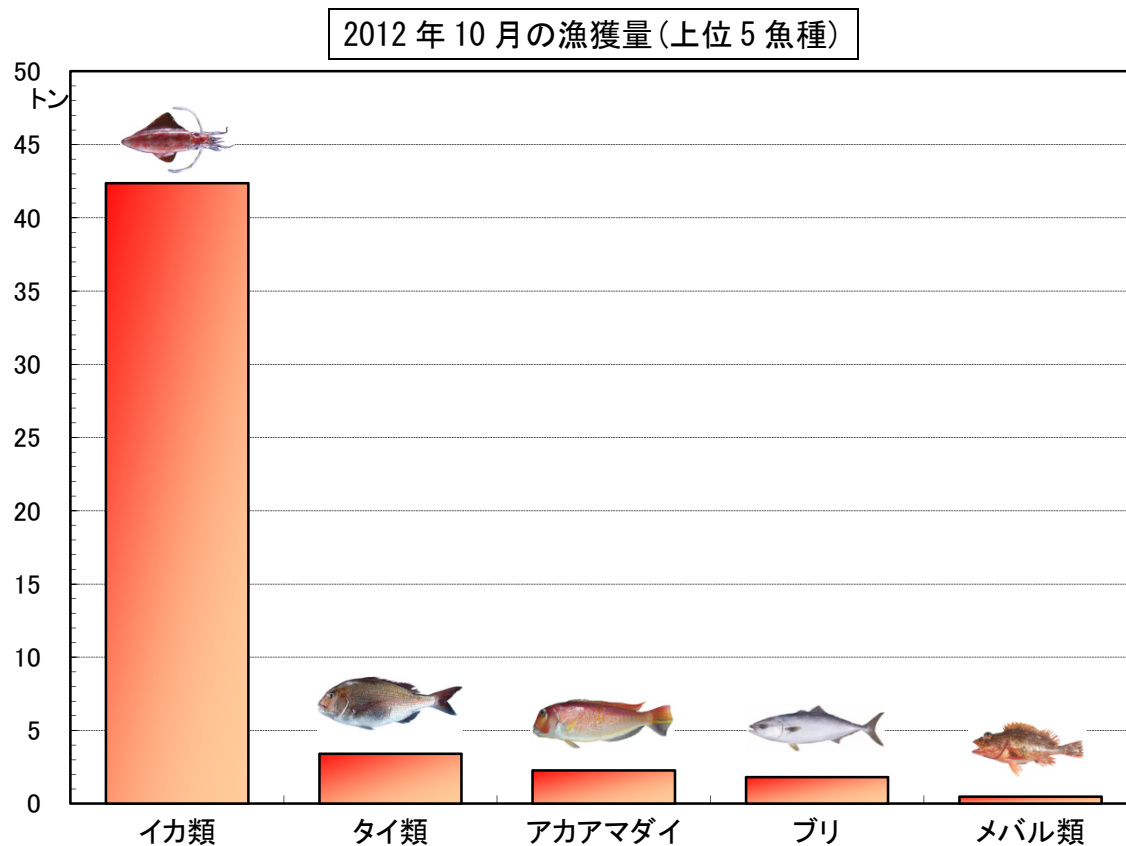


10月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖きす)	20.9	44.5 (47%)	38.9 (54%)	<カレイ類> ムシガレイ(水がれい)が3.9トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が3.6トン、ソウハチ(えてがれい)が3.5トン、アカガレイ(まがれい)が3.0トンなどでした。
カレイ類	15.1	21.8 (69%)	22.0 (69%)	
アンコウ	7.4	14.4 (51%)	9.4 (79%)	
タイ類	5.5	2.3 (237%)	3.6 (154%)	
イカ類	2.3	3.1 (74%)	2.6 (88%)	
タコ類	2.0	1.6 (125%)	2.3 (87%)	
マトウダイ類(ぼと)	1.8	0.5 (339%)	1.2 (144%)	
エビ類	0.7	1.3 (54%)	0.8 (83%)	
タラ類	0.6	0.4 (152%)	0.2 (281%)	
ヒラメ	0.6	0.2 (253%)	0.3 (213%)	
その他	7.1	5.0 (142%)	7.3 (98%)	
合計	64.0	95.1 (67%)	88.7 (72%)	

平年は過去10年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

ソデイカが好漁でした。全体の水揚量は平年の 1.5 倍および前年の 2.3 倍でした。



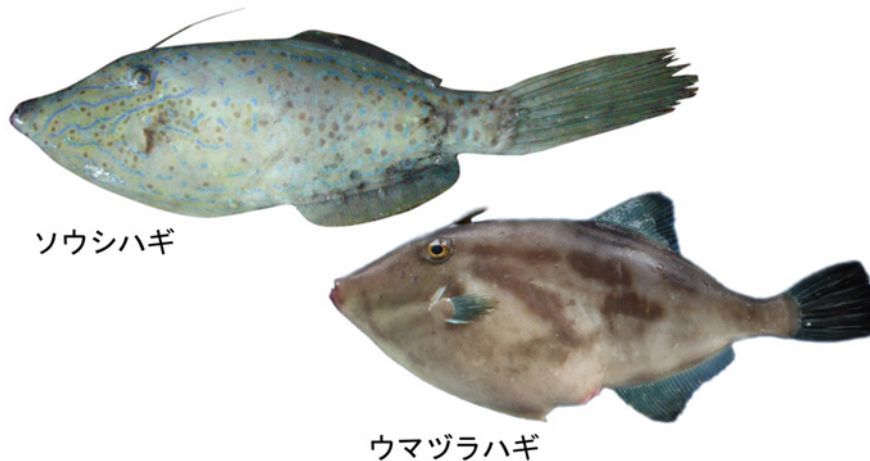
10 月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2012 年	2011 年(前年比)	平年(平年比)	備考	
イカ類	42.4	6.8 (621%)	19.8 (214%)	<イカ類> ソデイカが 40.9 トン, アオリイカ(秋いか)が 0.8 トン, ケンサキイカ(白いか)が 0.6 トンなどでした。 <タイ類> マダイが 6 割弱, レンコダイが 3 割強, クロダイとチダイが若干量でした。	
タイ類	3.4	4.6 (75%)	3.9 (86%)		
アカアマダイ(ぐじ)	2.3	2.9 (77%)	2.9 (80%)		
ブリ	1.8	1.1 (161%)	1.8 (103%)		
メバル類(もいお)	0.5	0.7 (74%)	0.5 (104%)		
ウマヅラハギ(長はぎ)	0.5	2.7 (17%)	1.6 (29%)		
カワハギ(丸はぎ)	0.3	—	0.3 (115%)		
ヒラマサ	0.3	—	0.3 (102%)		
メダイ(たいしょううお)	0.2	0.8 (23%)	0.5 (35%)		
スズキ	0.1	—	—		
その他	2.3	3.8 (59%)	4.2 (55%)		
合計	54.0	23.6 (229%)	35.7 (151%)		

平年は過去 10 年平均

## 【トピック ～ソウシハギにご注意～】

今年の秋には、カワハギの仲間のソウシハギが日本各地で出現しているようです。ご承知のこととは思いますが、この魚の内臓にはフグの毒よりはるかに強いパリトキシンという猛毒が含まれるといわれています。漁業者の皆様におかれましては、食べたり魚市場に出荷したりなさらぬようご注意ください。

なお、国の機関がソウシハギの分析を実施しているので、可能でしたら魚体提供のご協力をお願いいたします。



ソウシハギ(写真上)はウマヅラハギ(写真下)とやや似ていますが、体側の青い模様や大きな尾ビレから容易に区別できます。